

花粉交配用ミツバチの取り扱いと飼育管理

ハウス栽培のいちごの場合の注意点ですが、他の作物についても基本的には同じです。

1 ミツバチの導入時期

ハウス内に置いても1週間ぐらいは蜂が飛び回るだけで花に止まらないことがあります。ご注文は早めに。開花1週間前までに設置してください。

2. 巣箱の置き場所

ミツバチは巣箱の位置を覚えて方角を認知します。1度巣箱を据えつけたら、みだりに場所を変えないで下さい。蜂が迷って帰れなくなります。

3 巣箱の取り扱い

ハウス内への持ち込みは早朝か日没後、低温のとき。取り扱いは静かに、巣門を開放したらすぐに離れて、蜂が落ちつくまで近よらないでください。

4 巣箱の金網窓

通気用です。飼育中は窓を閉じた状態に、移動時には裏窓も解放してください。

5 観察

暖かい時間帯に50m程度の小型ハウスで2~3匹、大型でも数匹が花に通っていれば充分です。多すぎると、果実に障害が出ることがあります。(過訪花現象)

6 農薬

ミツバチ導入後、殺虫剤は使えません。どうしても必要な場合は、農薬の使用説明書に記載の期間、ハウスの外で出入り口を開放して飼育してください。

温度が上がるハウス内で巣門を閉めた状態でおくことは厳禁です。

7 問い合わせ

蜂が飛ばないとか死んだ場合には、まず別紙のチャートで問題点をチェックしてみてください。養蜂業者への相談は、その後にしてください。

状態の悪い群を長期間我慢して使うと奇形果の原因になります。

8 保証

保証期間は3ヶ月となっておりますが、納入日から1週間までの活動は保証できません。また誤った管理によって蜂が死んだ場合も同様です。

適温(16~25℃)を守り大切に飼育してください。

9 巣箱の返納

利用の終わった巣箱は速やかに返納してください。また巣門口は返納直前まで開けたままにしてください。長時間閉めきると蜂が全滅します。